

大濠公園内日本庭園実施設計

設計説明

序

日本庭園の施工にあっては、一般土木、建築のように施工素材を自由に加工、成形できるものは少なく、自然にある樹木や採取された石、岩の形状をそのまま使うため、表、裏、天、地をすでに有した材料による造形作業が主となる。

図面による設計では、動線及び配置、導入施設、施設内容、設置方法等可能な表現で意匠計画を示すものであるが、さらに庭園の成否の如何は造形要素個々の丹念な配置、設置作業の結果によるものであり、現場における監督指示が最も重要であるといえる。

設計の概要

大濠公園内日本庭園は、県民の休養、観賞の場としての公共性をもち、県内の日本庭園の範となる高度な内容の施設とする。

様式は築山林泉廻遊式、作庭の形態は日本庭園の伝統伝手法を用いる。

- ・ 構成及び地割は、庭園の中心を敷地形状より、中央部の北に寄せ、会館、茶室を設け、その南正面に大池を作り、池の周囲三方に築山を設け隣接する外景を遮蔽する。池の南岸正面の築山にある滝口を主景とする。池東岸築山の東南隅に溪流の滝、北東隅に布落の滝を設ける。池泉の区域は動的な雰囲気とする。
- ・ 会館建物から敷地西側の区域は、流れを主体とした平庭で、趣に侘びをねらい、主景に優雅さを盛り込む。(花木を楽しめる。)
- ・ この北面は、公園境界を低い築地塀で区切られた芝生広場と枯山水庭とする。(廻遊による観賞、野点利用。)
- ・ 会館東側に茶席と露地庭を設ける。
- ・ 入口は敷地の北東隅にとり、これより、会館正面、池畔に沿い、東進してさらに池の東岸南岸、滝口下、西岸、流れの庭、枯山水を経て、入口門に抜ける園路により廻遊を行う。
- ・ 東・西の築山上は、細路で巡廻可能、四阿を設ける。(全景の眺望が楽しめる。)

本紙は当時の実施設計図書における設計説明の部分を文字起こししたものです。